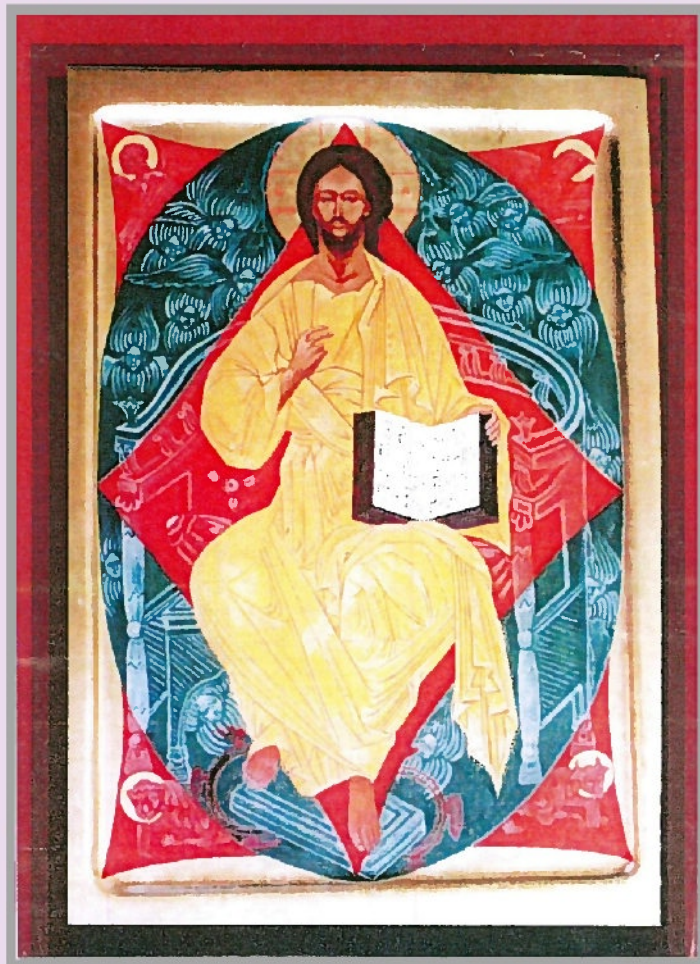


カルメル

霊性センターニュース



2016年4月

319号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	18
京都	22
名古屋	27
北陸	28
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	44
編集後記	45

心の泉





第二巻

第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

9 平和を見いだす

患難が甘美なものに思われ、苦しむことが好ましくなり、キリストへの愛のために、それが美味なものになれば、その時はすべて順調にいていると思ってもよい。なぜなら、この世に天国を見いだしたことになるからである。しかし、苦しみを重荷と感じて、それを避けたいと思う間はつまずきやすく、避けようとするればするほど苦しみがつきまとう。

もしあなたが、あなたのすべきこと、すなわちキリストのために苦しみ、自分自身に死のうとしはじめたら、すぐに喜びがあられ、平和を見いだすだろう。あなたがパウロと共に第三天まで上げられたとしても、それは苦しみをまぬがれる保証にはならない。イエスは、「彼が私の名のためにどれほど苦しまねばならないかを彼に示そう」(使徒言行録9・16)と言われた。だから、イエスを愛して、いつまでも仕えたいと思うなら、あなたに残されることは苦しみ以外にはない。

10 多くの人がもっと苦しんでいる

あなたは、キリストのみ名のために苦しみを耐え忍ぶ者でありなさい。そうすれば、あなたはどれほど光栄を確保し、また神の聖人たちがどれほど歓喜し、隣人はどれほど徳に励まされることであろう。どんな人も忍耐を奨励するが、進んで苦しもうとする人は少ない。あなたがキリストのために、何事かを喜んで忍ぶのは当然なことである。多くの人は、この世のために、それ以上の苦しみを忍んでいるのである。

いつくしみの特別聖年を生きるために

－4月－



父のいつくしみのみ顔である

キリストは

よみがえられた、アレルヤ

ご復活おめでとうございます！

ご復活の次の日曜日を前教皇ヨハネ・パウロ二世は「神のいつくしみの主日と定められました。そしてそれからしばらくの時間が過ぎ、教皇さまが帰天されたのがちょうどこのいつくしみにささげられた主日でした。あたかもそれは天の承認を得たかのように思われます。現代の混沌とした世をそっくりご自身のいつくしみの愛で包み込もうとされる御父の心の現れのようなのです。

神にとっては、いつくしみを抑えるよりも怒りをこらえる方がもっと優しい。」(アウグスティヌス)。神の怒りは一瞬ですが、神のいつくしみは永遠に続くものです。*

おん父のいつくしみの愛を自分に注いでいただくだけでなく、わたしたちも日々の生活の中で人々にその愛を証しできますように。教皇フランシスコは具体的に精神的な慈善の業をいくつか挙げています、「疑いをいだいている人に助言する、悲嘆に打ちひしがれている人を慰める、煩わしい人を辛抱強く耐え忍ぶ、もろもろの侮辱を赦す」など・・・*。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

*『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』特別聖年大勅書

人を赦す (29)

くのり 彰

以前、「敵を赦す」ということで、ボルボトの犠牲者であったクレール・リの言葉を取り上げたが、似たような話を、元真珠湾爆撃総指揮官であった海軍大佐淵田美津雄氏の「真珠湾からゴルゴタへ わたしはこうしてキリスト者になった」という小冊子の中に見出すことができる。

敗戦後、公職を負われ、世間から「職業軍人」と白眼視されながら、故郷にもどり、まるでロビンソン・クルーソーのように悪戦苦闘しながら、農業を営んでいると、ある時、横浜の占領軍事法廷にC級戦犯（連合軍の捕虜を虐待した罪）の証人として召喚された。しかし、連合軍側も日本軍捕虜を虐待したはずだと考え、浦賀に到着した日本軍捕虜のところへ話を聞きに行った。以下、淵田氏の言葉である。

ところがいろいろと話を聞き回っている内に、あるキャンプにいた捕虜たちから次のような美しい話を聞くに及んで、私の心は打たれたのです。この人々のキャンプに、いつのころからか、一人のアメリカのお嬢さんが現れるようになって、いろいろと日本軍捕虜に親切をつくしてくれるのです。年のころは二十歳前後であった言います。

まず病人への看護から始まりました。親身も及ばぬサービス振りに病人は心を打たれました。やがて二週間とたち、三週間と経過しても、まめまめしく立ち働くこのお嬢さんのサービスには、一点の邪意も認められなかったのです。

やがて全員は次第に心を打たれて、「お嬢さん、どうしてそんなに親切にしてくださるのですか？」と尋ねました。

お嬢さんは初め返事をしぶっていましたが、皆があまり問い詰めるので、やがて返事をされました。だがその返事は何と意外でありました。

「ええ、私の両親が日本軍によって殺されましたから……」

両親が日本軍によって殺されたから、その片割れの日本軍捕虜を親切にしてやるというのでは話は逆である。私たちの培われてきた道徳では、親の仇は不倶戴天とやらで、草の葉をかき分け、木の根を掘り起こしても、この仇を討たではおくべきかというのが、孝子節婦のありかたであるとされてきました。(続く)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (101)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

その人の怒りを和らげる

聖人はセゴヴィアにいました。そして「ある時、たけり狂った一人の農夫が、彼とけんかするためにやって来ました。この証人である私—このことを語ってくれた人が言っているのですが—は、前に立ち、聖なるヨハネ修父を見つめていました。修父が彼に少し話しかけると、彼はすっかり穏やかになったので、私は驚きました。というのも、彼は、ただ静かになっただけでなく、修父と別れる前に、感謝の心から、修道院につながった彼の土地の一部を、修父に提供したからです。その後、彼は修父の崇拜者となりました」。

ヨハネ修士のような聖人に我慢ならない人など、だれもいないということを、証人は見たのです。ヴァヤドリッドの母テレジアも、次のように言わざるを得ませんでした。「…主が彼をその手で支えているように思われます。仕事で私たちは何度も会う機会がありましたが、(私は、同じ場において、時々彼に対して怒ってしまいました)、私は彼の不完全さを一度も見ることがありません」。

ものを言わない被造物をいじくりながら

聖人は、ラ・ペニューエラにいました。そこからウベダへ、ウベダから天国へ、最後の旅を準備するために、そこにいました。二三日、ラ・ペニューエラで過ごしたとき、ドーニャ・アナ・デ・ペニャローサに手紙を書き、田舎の体験を報告しています。

「今朝—1591年8月19日—私たちは、ひよこ豆を収穫に行って来ました。毎朝、そうしています。他の日に、それらの殻むきをすることでしょう」。そして、心を少し楽にする人のように、悲哀に満ちた調子でこう書いています。「これらものを言わない被造物をいじくることは、生きた被造物によっていじくられるより、ずっと楽しいことです」。悲哀と詩情が一つになっています！



(ひよこ豆)

復活節第2主日

使徒トマス

(ヨハネ20:28)

主が弟子たちに現れた時トマスだけがなくて、弟子たちが「私たちは主を見た」といっても、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、またこの手をそのわき腹に入れてみなければ、私は決して信じない。」と言い張りました。なぜトマスはこれほど頑なになったのでしょうか。

トマスはおそらく人間は死ねばおしまいだと考えていたのでしょうか。これは旧約聖書に何度も出てくる考え方で、こう考えるのもあながち批判できません。また弟子たちが主の復活を見たというけれど、奇跡が起こるならどうしてゲッセマネで逮捕されてから十字架で死ぬまでに起こらなかったのか、トマスには合点が行かなかったのでしょうか。ナザレで群衆に崖から突き落とされそうになったとき、主は不思議にも群衆の真中を通して立ち去られたではないか。あの時天使の目に見えない守護があったに違いない。それなのになぜ今回はなかったのか。また主は湖の上を歩くこともおできになった。だから空中に体を浮かせて逃れることだってできたはずではないか。どうして奇跡をなさらなかったのだろうか。それはもしかしたら主の弱さ、限界だったのではないか。一般の民衆の前ではあれほど色々な奇跡を行なった主も、大祭司やローマの力の前には無力だった。ペトロたちは主が甦ったと言うが、それではなぜまたいなくなってしまったのか。主に生きていてもらいたいという願望が生み出した幻想ではないのか。トマスはこのように考えたことでしょう。

またこうも考えたでしょう。ベタニヤでマリアが主に注いだナルドの香油は三百デナリオンで売れたはずだが、三百デナリオンあればあるいは牢の役人を買収して主を逃すことも出来たのではないか。どうも主はあまりにも天使的で、地上を生きる知恵に欠けていたのではないのか。主の説かれた、敵をも愛する美しい愛の教えも、それを支える地上的知恵が必要なのではないのか。主御自身鳩のように素直で、蛇のようにさとくあれと仰ったでないか。愛とはかくも弱く、はかないものである。愛の一瞬のひらめきを永遠に留めておくには、地上的知恵とある程度の奇跡を用いなければならないのに、主は残念ながらバランスを欠いていたのではないか。奇跡をもっとうまく活用すべきだった。彼が復活した主に出会うまでこう考えていたのではないかと思います。

主が現れ、手とわき腹の傷をお示しになった時、トマスは一瞬にして悟ったのでした。主が自分を含む罪人のために死なれたことを、主の逮捕された時に逃げてしまった弱い自分を主が赦してくださっていることを、そして主の十字架こそ贖いであり、愛を永遠に留めるものであって、復活はこの世を超えた生を示しているのだと悟ったのです。主の十字架と復活は神の力が何者にも負けないことを示しています。またこの世の知恵をはるかに超える神の知恵がそこに光り輝いているのです。目の前に勝利された主を見て、トマスはひれ伏し、喜びに震えながら「我が主よ、我が神よ」と言うしかありませんでした。それはイエスが神であることを公に言い表した最初の信仰告白となりました。(Fr. 新井 延和)

復活節第3主日 (C)

(ヨハネ21:1~19)

本日の福音は、ご復活後の慈しみ深い救い主が失望し落胆している弟子たちを探しに行く話です。最初の部分では、復活したイエスが弟子たちに現われ、弟子たちに彼らの使命の象徴を、奇跡的な豊漁とそれに続くイエスが魚を焼いて朝食を準備するという形で与えています。第二の部分はイエスとシモンとの対話です。イエスを愛するかとシモンは三回訊ねられます。それは、あたかもシモンが三度イエスを否定したことへの償いのようなのです。物語の中で使われている二つの比喻、即ち漁と牧畜は、宣教における教会の義務です。

使徒たちの体験と私たちの体験:ペトロが復活したイエスに気づいて水の中に飛びこんだように、キリスト者は復活したイエスへの信仰を告白して水と聖霊で洗礼を受けます。最初の弟子たちが復活したイエスと食事をともにしたように、私たちは今、定期的にイエスとの聖体祭儀に与ります。復活したイエスが、自分に代わって司牧の使命をペトロに任せたとように、洗礼と聖体祭儀の本来の意義は、自分自身と自分の信仰を他者と分かち合うことにあります。

目や耳や心を大きく開いて、復活した主が様々な形や状況や出来事の中で私たちの生活に來られるのを見たり聞いたり体験したりする必要があります。復活の主は私たちに成功や成果を与えてくださいます。私たちはしばしば思いがけない勝利や、大きな成果、昇進、奇跡的な回復や、成功に隠されて、復活したイエスの存在を認め損ないます。

復活した主は苦しみや悲しみのときに現存されます。使徒言行録9:1~13では、サウロはダマスカスへの道で落馬し、一時的に失明することで、人生を一変させられます。同じイエスが、しばしば事故、病気、愛する人を失う出来事、苦しみや悲しみ、人間関係でのトラブルなどの形で私たちに訪れます。ベルナディン枢機卿は、胆嚢と膵臓の癌の増殖を抑えるために腎臓の一つを摘出する手術で入院したとき、「癌は私の人生に積極的に関り、復活したイエスへの私の信仰を増しました。私は忙しい司牧の生活の中よりも、病院の中でイエスを体験することが出来ました」と言っています。前立腺癌への見込みのない戦いをしていたデズモンド・トゥトゥ司教は、配偶者の愛や、ベートーベンの交響曲、バラの花の露や、孫の笑顔など、見たり聞いたりする新しい目や耳を病気はどれほど与えてくれるかと言ひ、非常に感謝しました。

私たちは、祈りのうちに主に相談し指示を受けた後に、主の祝福を受け、復活の主と共に働き、私たちの営みすべてを計画する必要があります。人々を漁り、羊の世話をし、命の言葉で養うという福音の生活様式を続ける一つの教会になれるように祈りましょう。

(Sr. Paulina)

復活節第4主日

(ヨハネ10：27-30)

今日のみことばは、イエスがファリサイ派の人々との議論で「羊の譬え」を話された後の箇所です。それから時間も経ち、季節も冬となった時の神殿の境内での出来事です。

イエスはユダヤ人との議論の中で、「あなた方は信じない。わたしの羊ではない…」と厳しい言葉をユダヤ人たちに語った後、「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。」と羊の譬えを用いて、議論しているユダヤ人とは対照的に、神の言葉に聞き従う人の姿を語ってゆかれます。

神からの語りかけを受けて、最初に神の民とされたユダヤ人たち。そんな彼らですが神の言葉、神の独り子の言葉を受け容れる、受け止めることができなくなっています。もちろんそんな彼らが滅ぶことを、神は決して望んでおられるわけではありません。全ての人の救いのため、神のみことばが人となってこの世に来て下さったのですから。

私たちはどうでしょうか。この冊子をご覧の方の中には、神からの呼びかけに応え、洗礼をお受けになられた方もおられるでしょうし、そうでない方もおられるでしょう。人によって異なるでしょうが、私たちはイエスが語られる様な「羊」なのでしょうかね？

父なる神の語りかけに、イエスの語りかけに耳を傾けて、しっかり聞き分けていれば、イエスにとっての大切な「わたしの羊」でしょう。でも、もしそうでないとするならば、知らず知らずのうちに「わたしの羊ではない」ことになっているかも知れませんね。

イエスは父なる神と一つ。神のみこころは、わたしたちに永遠の命を与えること……。どうかわたしたちが、神の語りかけ、イエスの語りかけに、また教会を通して語られる神の語りかけに従うことができます様に。信じない者ではなく信じる者、聞き分ける者となってゆくことができます様に。

ご復活の恵みの中、わたしたちがイエスにとっての「大切な羊」「わたしの羊」となることを願いながら、祈りながら、わたしたちの歩みを進めてゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

今日の福音は、イエスが十字架を引き受けて下さる前の晩、弟子たちとの最後の晩餐の席でお話しになったイエスの切なる思いをこめた最後の講話です。イエスが、弟子たちとわたしたちのために、ご自身がこの世を去る前にどうしても話して置きたいと望まれ遺された緊急の大切な講話です。このお別れの講話にはキリスト教の栄光と愛についてのイエスの力強い、親密な思いが溢れています。

栄光のキリスト教的概念：今日の福音でイエスがお話しになっている栄光は何よりも先ず、キリストが十字架に上げられるときにお受けになる栄光です。福音記者ヨハネはキリストの死はキリストの勝利の始まりであることを強調しています。キリストが十字架刑を受けて下さることは、天の御父へ向かう最初の一步と考えられます。同時にそれは神である父に栄光を帰することです。これは御自ら、わたしたちのために引き受けられる十字架上の死であり、神のご意志への最高の従順を示すもの、人が神の栄光のために成しうる最大の犠牲（完全な奉獻）です。神である父はこの栄光に応じて人の子であるキリストに栄光をお与えになります；キリストの聖なる人間性における復活と神の右の座に上げられる昇天を通してお与えになります。このように御子から御父に与えられた栄光は同時に御子の栄光となるのです。“キリストの弟子であるわたしたちはキリストの御父への従順に習い、毎日無条件の赦しと奉仕のアガペの愛を実行しながらキリストの新しい掟、愛の掟を守っていくのです。”

新しい掟：イエスはお別れの講話の後半で、イエスに従う者に新しい掟をお与えになります：イエスが愛して下さったように互いに愛し合うこと。その愛は魚の印や十字架の印によって知られているものではなく、回心の実りであるお互いの愛によって示されるものです。かつてソロモンが母の愛によって真の母を確かめたように、世はわたしたちがイエスの真の弟子であることを互いに愛し合う姿を通して知ることが出来ます。イエスの新しい掟は旧約のレビ記 19 : 18 の戒め、“自分自身を愛するように隣人を愛なさい。”にもありますが、新しいことはこの愛はイエスが身をもって示して下さった新しい生き方を特徴づけるものであり、それはまたわたしたち人間の神に対する愛の証でもあるからです。「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神からでるものです。」

(1ヨハネの手紙 4 : 7)。イエスの新しい掟は限界や条件を持たない必須のものです。この愛は世界中の貧しい人々を思いやり、絶望している人々を気遣い、真の世界平和を実現するために祈り、働き、努力を惜しみません。

笑話：司祭が結婚式を終えた新夫婦に小さな木の十字架を渡して言いました、“言い争いをよくする部屋に置いておきましょう。これを見ればイエスの新しい掟を思い出さずでしょう。” ミサの後、一人の婦人が来て言いました。“神父様、わたしに五つの十字架をくださればよかったのに。”

(Sr. Paulina)

微妙にひっかかるとしか言いようがないのです。

はっきりした理由は自分でもわからずに、底の方にもやもやと何かがひっかかっている気になります。

きっかけとなったひとつのことはあったのですが、ここに関連したことが次々と心の内から浮かび上がってきて、考え込んでしまいました。

少し前のことですが、体操の覇者である内村航平選手が、競い合う相手の選手が鉄棒で落下したことをこんなふうにコメントしていたのを聞きました。

「何で落ちるんだよ 二人とも完璧にやって それでどっちが上かってそれこそが勝負なのに」 瞬間私はすごい、さすがと思ったのです。内村選手ぐらいになると言うことが違うと感心しました。しかし、問題はその後でした。

どうにも落ち着かない何かを抱えてしまったようで、気になって仕方がないのです。もやもやと動くそれが、日を追って少しずつ形をとり始めるにつれて、私はなぜか悲しい気持ちになってゆきました。

もし私が鉄棒で落下してしまったら、そちらの身だとしたら、飛び上がって万歳してくれなくてもいいけれど、よし！勝ったぞ！と心の中で得意になって笑ってくれた方が、高下のない対等な感じで気が楽なのですが。対戦相手から「何で落ちるんだよ」と言われると、ちょっと惨めになります。

(勿論これは私の勝手な思いからなので、当然のこと内村選手のほんとうのお気持ちのほどは、伺い知ることはないのですが)

そしてまた、忽然と心の内から浮かんできたものがありました。

小学校の低学年の頃に知ったと思うのですが、今日の今日まで一度として思い出したりはなかったことです。学校の授業だったのか、それとも自分で本を読んで知ったのか記憶ははっきりしませんが、大昔のウインブルドンテニス大会でのエピソードです。日本の清水という選手が対戦中に、相手の選手が転んでしまったそうです。そうしたら清水選手は、相手が起き上がって打ち返せるような球を打ったという話です。これだけのことを覚えていたのですが、相手を思いやるやさしさ、気高い精神というように、教訓的に子どもの心に入っていたのでしょう。時に及んでよくぞ蘇ってきたものと自分でも驚きますが、そうなのです、もし私が転んだ選手の身だったら、助かった有り難いというよりは、反対にとっても惨めになって、舌を噛んで死んじやいたいと思うでしょう。もっとちゃんとテニスやろうよ、という気持ちです。

(ただ、このエピソードの詳細を私は知りません。後世に話が残るということは、きっと感動的な場面であったのだろうと推察するのですが)

私は何が悲しいのでしょうか。なぜ泣きそうになるのでしょうか。

試合中に落下したり、転倒したり、失敗を、対戦相手に残念がられたり、配慮されたりして屈辱を感じるためなのでしょう。いいえ、少し違うようです。もっと他のものが心の底の方にあるのです。

今ひとつまた思い浮かんだことがあります。

私は当誌(241号)に「赤勝て!白勝て!」と題する拙い文を載せています。

それは大相撲の優勝決定戦で、朝青龍と白鵬の対決の際、朝青龍を応援する私は熱を上げる余り、思わず「白鵬負けろ」と言い及んだこと。その時の自分の身が負った強い衝撃、突き上げてくる深い悲しみを、私たちの人生にもなぞらえつつ記しました。相手が勝てば私は負けるのです。私が勝てば相手は負けます。双方に勝ちたい一心がなければ善戦ではありません。

露わとなった自分の浅ましさに打ちのめされた痛みは、今も忘れていません。

勝負というものを考えます。

巖流島の果し合いや、荒野の決闘とは別の、いわゆるゲームとしての勝負です。勝負をつけるために私たちは仕組み、枠組みを正確に設けます。この純正さは決して汚されてはならないでしょう。品位を欠くエゴイズムや如何なる雑念も入りこんではならないでしょう。この純正を、公明き公正さをもって正々堂々と生きることは、並大抵のことではないと思います。

本気で生きようとするれば、時には心の痛み、苦しみを免れることはできないでしょう。

ああ、そうなのです。ウインブルドン大会の清水選手には、転倒した相手が決して打ち返すことのできない球を、心の痛みを耐えて、泣きながら打ち込んでほしかった。たとえその後も痛み苦しみをもち続けることになるうとも。

私は自分の悲しみに行き着いたようです。

成ることのない限りへの祈りのような悲しみです。

今、痛みを負い、ひとこと添えます。

清水選手、内村選手、・・・ごめんなさい。

いのちの言葉 4月

私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、
わたしにしてくれたことなのである。

(マタイ 25-40)

月々の「いのちの言葉」として、しばしば選ばれる今月のみ言葉は私たちにとって大切なみ言葉です。それはなぜでしょう？ おそらく福音の核心をついているからでしょう。人生の終わりにイエスの御前に立たされる時、イエスが私たちにおっしゃるのはこのみ言葉です。人生で最も重要な、天国に入るための試験問題は、このみ言葉の内にはっきり示されています。その時のために日々私たちは自分を準備していると言えるかもしれません。

イエスは、飢えている人に食べさせ、喉の渇いた人に飲み物を与え、旅人を歓迎し、裸の人に着る物を差し出し、病人を見舞い、刑務所にいる人を訪ねたかどうか、と私たちにお尋ねになるでしょう。その一つひとつの行いは小さなことかも知れませんが、永遠に価値あるものです。愛ゆえに、そしてイエスのために行ったことなら、小さなことは何もありません。

イエスは単に、貧しい人や疎外された人に寄り添い、病人を癒し、苦しむ人を慰められただけではありません。人知の及ばぬ神秘的な形で、イエスはご自身を彼らと全く等しい者となさいました。そして彼らを「私の兄弟」と呼び、特別に心にかけて愛されました。

現代にあっても不正や暴力に苦しむ人々、仕事を求める人、苦しい生活を余議なくされている人、戦争で自国を後にせざるを得ない人々の内に、イエスはおられます。私たちの周りにも、どれほど多くの人が様々な苦しみを抱え、声なき声で助けを求めているのでしょうか。彼らは、具体的な愛を私たちに求めておられるイエスです。現代社会の必要性に答え、新たな「慈しみの業」を生み出せる愛が求められています。

この愛から除外される人は誰もいません。もしお年寄りで病気の誰かがイエスなら、私たちはその人のために手を尽くさずにいられるのでしょうか。難民の子に言葉を教えるなら、イエスに教えることです。家の掃除をしてお母さんの手伝いをするなら、イエスを助けることになります。刑務所にいる人に希望を与え、苦しむ人を慰めるなら、また自分を傷つけた人を赦すなら、私たちはイエスを愛し、イエスを助けることになります。このように生きることの實りとして、私たちは相手に喜びを与えるだけでなく、自分自身ももっと大きな喜びを味わうことになります。与えることにより与えられ、心が満たされるのを感じます。気づかな

いかかもしれませんが、私たちが心に喜びを感じるのは、イエスに出会ったからです。「兄弟は、神様に至るために通る“門”です」とキアラ・ルービックも記しています。

キアラは、福音を生き始めた頃に今月のみ言葉から受けた印象を、次のように語っています。

「兄弟に対する以前の考え方や愛し方はすべて、くつがえされました。あらゆる人の中に何らかの形でキリストがおられるなら、もはや同国人と外国人、お年寄りと若者、きれいな人とそうでない人、好感が持てる人、持てない人、裕福な人、貧しい人などと差別したり、えり好みしたりすることもできなくなりました。キリストがすべての人の背後、すべての人の内におられたのです。どの兄弟も本当に『もう一人のイエス』でした。

このように生きながら、兄弟は神様に至る道、いえむしろ、神様に会うため避けては通れない門だ、と気づきました。

これは初期の頃からの体験でした。兄弟ひとり一人の中におられる神様を愛し続けた一日の終わりに、心静かに祈る時、神様との深い交わりを味わったからです。いったい誰が、私たちにあのような慰めを与え、天国的で新たな神様との交わりに導いてくれたのでしょうか。『与えなさい、そうすれば与えられる』¹と言われたキリストに他なりません。私たちが兄弟の中のキリストを一日中愛したので、今度は、キリストご自身が私たちを愛して下さったのです。」²

ファビオ・チャルディ神父

*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 4月10日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 4月10日(日) 13:00~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

近畿 4月24日(日) 13:30~ 大阪 カトリック香里教会

お花見・子供&ファミリーフェスタ

4月3日(日) 14:00~16:30 高井戸男子フォコラーレ本部

神奈川マリアポリ 5月28~29日(土日) 横浜市民ふれあいの里 上郷・森の家

¹ ルカ 6-38

² 「霊的書き物4巻」チッタ・ノーバ社
(ローマ 1995年) p204-205

連絡先 : フォコラーレ
03-3707-4018/03-5370-6424

長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

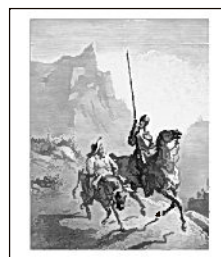
ホームページ:

conil157chl.wix.com/focolare-jp

糸巻き棒からペンへ(8)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD



スペインの町々は、フィリピンを通して極東から届いた芸術の影響によっても、また植民地アメリカの原始的芸術によっても、豊かにされました。ホアン・デ・エレラは、エスコリアル宮殿を造り始め、ディエゴ・デ・シロエやホアン・デ・フニやエル・グレコは、傑作を生み出していました。

カスティリヤの中心から、フェリペ二世は、それ以前には一度もなく、その後も二度と繰り返されなかった、「太陽が決して沈まない」帝国を支配しました。それは、次のような地域を含んでいました。カスティリヤ王国や、アメリカやフィリピンのように、その所有となっていた北アフリカの土地、またアラゴン王国と、その所有となっていたフランス南部と地中海の土地：ナポリ、シチリア、サルディニア、オラン、チュニジア、ルション、フランス伯爵領、カタルーニャ、ヴァレンシア、またナヴァラ、オランダ、神聖ローマ帝国、エル・ミラネサード、ポルトガルとその所有となっていたアフリカとアジアの植民地です。

当時の社会を規定していた五つの特徴があると思います。これらは、テレジアの生涯や言葉遣いや態度を理解する上で、助けとなることでしょう。とはいえ、彼女も時代の人間であるので、その新しさがすべて彼女と一致するわけではありません。

1. 戦争や紛争という一般的な状況。コンキスタドール（征服者）や騎士道の理想（その典型はドン・キホーテです）によって正当化されていました。
2. 階級による住民の厳格な区分。社会階級の間にはっきりとした差別が設けられていました。
3. 名誉に対する特異な感覚。これが、その時代のあらゆる活動や野望の究極的原動力となっていました。
4. 男性への女性の服従。社会や教会の全領域において、これがおこなわれていました。
5. 深い宗教的不安。これは、社会のすべての階層に等しく広がっていました。

これらの現実について反省することは、重要であると思います。なぜなら、それによってのみ、私たちはテレジアがその時代の子であることを理解することができるからです。

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2016年2月7日

跣足カルメル修道会総長と女子カルメル修道会代表者たちとの会議

2月3日に予定どおり、ザベリオ・カニストラ総長は、「奉獻生活年」閉幕のためにローマに来ていた女子カルメル修道会代表者たちと、「サレジアヌム」センターで会議を持たれました。

世界中の女子カルメル修道会の連盟や連合の会長やその代理たちの他に、トレ・マドンネと聖ヨゼフのローマのカルメル会修道院長、及びレジナ・カルメリからの代表者一人が、総長の特別招待を受け、出席していました。全部で、105名の修道女が出席しました。司祭側で総長に同伴したのは、総長顧問のアグスティ・ボレル神父、ルカス・カンシィ神父、ダニエル・チョウニング神父、女子カルメル担当のラファル・ウィルコフスキー神父、総代理のジャン・ジョセフ・ベルガラ神父、そしてイベリア管区長ミゲル・マルケス神父らでした。マルケス神父は、これに先立ち、CIVSVAの講座において講演を行いました。これについては後日お知らせいたします。

この会議では、女子カルメル会修道女の生涯養成と、法的にだけでなく、特に家族的な愛の意味で、総長の管轄となるこの分野での男子カルメル会の責務が、中心テーマとなりました。

会議の最初の講話で、ザベリオ総長は、修道女側の協力を得ながら、総長館として、養成分野での奉仕をしたいと表明されました。このようにして、修道女達自身も自分たちの養成のための教材作成にかかわることになります。知的側面を脇に置くことなく、修練が、修道女の人格とその召命を、個人的にも共同体的にも世話し続けることが大切であると、総長は述べられました。

夕方には、プソル（スペインのバレンシア）のカルメル修道院から来た、マリア・ホセ・ペレス姉妹が、昨年、聖テレジア生誕500周年記念の間、掲載した聖女についての養成教材のブログ「テレジア、糸巻き棒からペンへ」での経験を、会議出席者と分ち合いました。この経験に基づいて、ペレス姉妹は、継続的養成のためのインターネットによる可能性を手がかりとして与えてくれました。

これら二つの講話に続き、出席者の言語別グループでの話し合いがホールで持たれました。会議は、夕の祈りの共唱とこの歴史的な日に対する感謝をもって閉じられました。この日の写真集は、次のサイトで見ることができます。

<https://goo.gl/photos/Fp4pv3C7SMYiRxED8>

Message of Fr. General: On-Going Formation of the Discalced Carmelite Nuns - A Proposal_03.02.2016

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

21//02//2016

Acts of the "Saint Teresa of Jesus teacher of life" inter-university congress

Already available on-line are the conferences of the inter-university Congress on "Saint Teresa of Jesus teacher of life", which was organized by the Catholic University of Avila and celebrated from 1st to 3rd of August, 2015, in Avila [Spain].

They can be found here on the web:

<http://www.congresosantateresa2015.es/> The official languages of the congress were Spanish, English and German.

The congress analyzed the figure of Saint Teresa by means of a series of papers and discussions led by experts, to which can be added more than 80 communications. The central act of the congress was the awarding of a doctorate honoris causa to the Saint by the Catholic University. The number of those taking part was quite high: more than 400 people coming from 26 countries.

In a statement to "Communications", the director of the University, Maria del Rosario Sáez Yuguero, said, "Numerous are the people and those taking part from throughout the world who have shown their happiness at the academic quality and fraternal time spent together during these days in the walled city. Let us thank God for having inspired such an increase of knowledge and experience of the Saint".



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2016年

4/28(木)、5/13(金)、5/26(木)、6/24(金)、6/30(木)、
7/8(金)、7/21(木)、9/8(木)、9/16(金)、10/28(金)、
11/11(金)、11/24(木) 12/9(金)、12/22(木)

2017年

1/12(木)、1/27(金)、2/9(木)、2/24(金)、3/9(金)
3/24(金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

7月31日(日) 18時～	8月9日(火) 朝	福田正範神父
8月12日(金) 18時～	8月21日(日) 朝	福田正範神父
10月13日(木) 18時～	10月22日(土) 朝	福田正範神父
12月27日(火) 18時～	2017年1月5日(木) 朝	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

4月16日(土) 16時～17日(日) 16時

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

5月27日(金) 20時～29日(日) 16時

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニムスは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 2016年 4月28日(木) 午後1時30分~午後4時

5月13日(金) ”

5月26日(木) ”

6月24日(金) ”



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

神のいつくしみ



- 日時 : 4月16日(土) 16時 ~ 17日(日) 16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締切 : 4月9日(土)
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電話: 03(5706)7355
FAX: 03(3704)1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

2016年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	4月16日(土)～17日 5月6日(金)～8日 9月10日(土)～11日	復活したイエスを捜しつづける私たち イエス、いつくしみの愛のもとに留まる 人生の実りを思いめぐらす	中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父
-----------------------	--	---	----------------------------

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)	4月9日(土) 5月14日(土) 6月11日(土)	7月2日(土) 9月10日(土) 10月22日(土)	中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父
----------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------

【水曜黙想】

(午前10時～午後4時)	4月20日(水) 5月18日(水) 6月8日(水) 7月20日(水) 9月21日(水) 10月19日(水) 11月16日(水)	イエスと共に日々を振り返る 神のいつくしみの啓示者イエス。キリスト 神のいつくしみとイエスの聖テレサ 神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ 神のいつくしみとエディット シュタイン 神に愛されている喜び いつくしみの御母、聖マリア	シスターロサ 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 シスターロサ 松田浩一神父
--------------	---	--	--

【キリスト教霊的同伴】

午後8時～午後3時まで (金) 夕食なし	4月22日～23日(土) 6月03日～04日(土) 7月8日～9日(土) 9月2日～3日(土)	10月21日～22日(土) 11月11日～12日(土) 12月2日～3日(土)	松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父
-------------------------	--	---	--------------------------------------

【待降節の黙想】

(午後5時～午後4時)	12月10日(土)～11日(日)	夜露のように静かに訪れる神を待つ	中川博通神父
-------------	------------------	------------------	--------

【聖テレーズの黙想】

(午後5時～午後4時)	9月30日(金)～10月1日(土)	伊従 師
-------------	-------------------	------

【カルメル青年の集い】

(午前10時～午後4時)	4月29日(金)	11月23日(水)	松田浩一神父
--------------	----------	-----------	--------

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

(午前10時～午後4時)	5月2日(月)～5日(木)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
(午後5時～午後4時)	10月14日(金)～15日(土)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
	10月14日(金)～15日(土)	イエスの聖テレサの霊性	松田浩一神父
	12月13日(火)～14日(水)	十字架の聖ヨハネの霊性(2)	松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】	8月 2日 (火) ~11日 (木)		中川博道神父
(午後5時~午前9時)	8月15日 (月) ~24日 (水)		松田浩一神父
	12月27日 (火) ~1月5日 (木)		松田浩一神父
【English Retreat】	5月28日 (土)	Come to me you broken hearted.	シスター-ロサ
(10am to 4pm)	11月26日 (土)	Maranatha-Come Lord Jesus	シスター-ロサ

祭日のミサに参加するために

- 【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
 聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
 3月31日(木)~4月3日(日) [講話なし、各食事つき]
- 【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
 12月24日(土)~12月25日(日) [講話なし、各食事つき]



『—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—』

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時~午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
 宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
 E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル 青年黙想会



いつくしみの特別聖年の御業と
カルメルの聖人たち



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

「教皇はこの聖年中、特に司牧者と信徒が『いつくしみの行為による業と、霊的な業』を信仰生活の中心に据えることが必要と強調」 バチカンニュース1月29日より

日時：2016年4月29日（金）Am10時～Pm4時

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：35歳までの青年男女

会費：3,000円（学生は1,500円）

霊的同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

TEL：0774-32-7016

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

一般のためのカルメルの霊性セミナー

テーマ：『カルメルの聖人たちの神のいつくしみのみ業』

《5月3日イエスのテレサ、5月4日十字架のヨハネ、5月5日リジューのテレーズ》

「教皇はこの聖年中、特に司牧者と信徒が『いつくしみの行為による業と、霊的な業』を信仰生活の中心に据えることが必要と強調」
パチカンニュース1月29日より

場所：カルメル会聖テレジア修道院<黙想>（京都）

日時：5月2日（月）PM5:00～

5月5日（木）PM4:00

参加者：カルメル会の霊性に興味のある人

参考資料：当日プリントをお渡しします。

費用：20,000円<学生：10,000>

指導：松田浩一 神父（カルメル会士）



イエスのテレサ



十字架のヨハネ



リジューのテレーズ

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457



teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

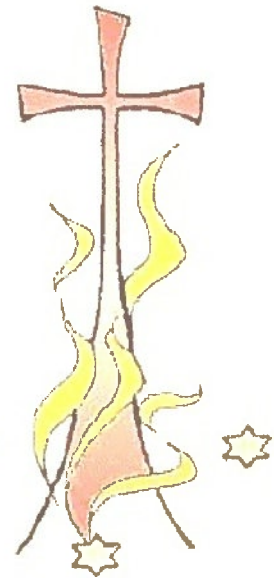
日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴**(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

【参加者人数】 6 名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土) 終了
3月18日(金)～19日(土) 終了
6月 3日(金)～ 4日(土)
7月 8日(金)～ 9日(土)
9月 2日(金)～ 3日(土)
10月21日(金)～22日(土)
11月11日(金)～12日(土)
12月 2日(金)～ 3日(土)
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ

— 特別聖年を迎えて —

1. 日時：1月23日(土)「いつくしみの特別聖年について」 **終了**
九里 彰 神父
- 3月21日(月)「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」 **終了**
九里 彰 神父
- 5月21日(土)「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ
—イエスの聖テレジアの場合—」
松田 浩一 神父
- 7月18日(月)「神のいつくしみの生きた証人となれ…
(福者フランシスコ・パラウと他)」
Sr. ポーリン・フェルナンデス (カルメル宣教修道女会)
- 9月19日(月)「いつくしみの泉である教会」
今泉 健 神父
- 11月23日(水)「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」
Sr. 伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2. 場所：カトリック日比野教会 信徒会館
(地下鉄・名港線日比野駅下車 徒歩約5分)

3. 参加費：1000円

4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

5. プログラム

- 10:00 導入の祈り (聖堂)
- 10:20 第一講話 (信徒会館)
- 11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
- 12:00 昼食 (信徒会館)
- 12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
- 13:00 第二講話
- 14:00 念祷 ③
- 14:30 ミサ (聖堂)
- 15:30 茶話会 (信徒会館)
- 16:00 終了の祈り

6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁目1-26

「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つける。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内

春



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☎ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度 夏学期: 理性の自律と心の愛
4/9, 4/23, 5/7, 5/14, 5/21, 5/28, 6/11, 6/25, 7/2,
7/9, 7/23, 9/3, 9/10, 9/17

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。
・「通う霊操」 8月20日(土)～8月28日(日)
18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切期は、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
4月9日、5月7日、6月11日、7月2日、
8月6日、9月10日、10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、4月28日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

4月28日(木) 20時20分～5月5日(木) 8時40分
6月3日(金) 20時20分～5日(日) 13時00分
8月7日(日) 20時20分～13日(土) 8時30分
10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。

[関西]

4月16日(土)13時30分～17日(日)15時、7月30日(土)17時45分～8月5日(金)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
4月23日(土)、6月25日(土)、10月15日(土)、2017年1月29日(日)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- | | |
|---|--|
| イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階) | [基盤] |
| 4/8 信仰の道— 人生の意義を問う | 4/5 存在の超越と内在 — 神理解への道 |
| 4/15 聖書の人間像— 人間の現状と使命 | [人間] |
| 4/22 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること | 4/19 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰 |
| 5/6 理性と神認識の道— 世界内存在を通して | 5/17 救いの歴史 — 時間における意義 |
| 5/13 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味 | [神] |
| 5/20 歴史と信仰— 神との出会い | 5/31 無限への問い — 理性による神理解 |
| 5/27 内なる神— その「似姿」としての人間 | 6/7 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理 |
| 6/3 新約聖書の神理解— 主なる父 | 6/18-19 ●黙想会(上石神井) |
| 6/10 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ | 6/21 人生のうちに働く超越 — 神経験の多様な形 |
| 6/17 救い主の役割— 人類の待望 | 7/5 「私は在る」— 旧約における神の自己啓示と預言 |
| 6/18-19 ●黙想会(上石神井) | 7/19 神の語りかけ — 「契約」と「救い主」の待望 |
| 6/24 神の国— イエスの告げるメッセージ | 7/23 ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人) |
| 7/1 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える | 8/2 ○休み |
| 7/8 イエスのたとえ話— 神の働きを語る | 8/16 将来の約束 — 自立した世界の中の導き |
| 7/15 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に | 8/20-28 ●通う霊操 (18時-20時45分) |
| 7/22 イエスは誰か— イエスの自己理解 | [イエス] |
| 7/23 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人) | 8/30 史的イエス — 活動と生き方の特徴 (8月中 上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂) |
| 7/29 最後の晩餐— 自分を与えるイエス | 《場所・お問い合わせ》 |
| 8/5,12 ○休み | 聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前) |
| 8/19 イエスの受難— その史実と意図 | 信徒会館3階 |
| 8/20-28 ●通う霊操(18時-20時45分) | アルペホール TEL 03・3263・4584 |
| 8/26 イエスの死— その救済的意義 (8月中 上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂) | クラウド・リーゼンフーバー神父 |
| 9/2 聖書のイエス像— ヨハネとパウロの見たイエス | 〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 |
| 9/9 ○休み | 上智大学SJハウス |
| 9/16 イエスの復活— 今に生きるイエス | 電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言) |
| 9/23 聖霊— 神の愛に導かれる | Fax 03-3238-5056 |
| 9/30 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる | |

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

いのちの泉へ



すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
沈黙の祈りで構成された集いです

東京 いつくしみの特別聖年に

4月23日（土） 午後2時～午後5時30分

講話：伊従信子

祈り・質問・分かち合い

参加費 200円

~~~~~

お申し込み・問い合わせ：東京ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

京都

4月2日（土） 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子

\* 『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』 聖母の騎士聖母文庫  
三位一体の聖エリザベト 8章 愛の神秘 愛に変えられる

4月12日（火） 13時半～15時半 河原町カトリック会館3階304室

\* 『弱さと神の慈しみ』 伊従編著、サンパウロ出版 担当：伊従信子

\* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半

4月2日（土） 14時～16時 河原町カトリック会館7階

\* 「テレサの集い」担当：中山真里

『神の御前に』読書会 その後「祈り」

4月16日（土） 13時半～15時 京都NDV

\* 主日の福音（4月17日）の分かち合い 担当：中山真里

~~~~~

お問い合わせ 京都ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : ndvkyoto@gmail.com

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2016年5月27日（金）20時～29日（日）15時

マリアに注がれる神のいつくしみ

いつくしみの聖年にあたり

マリアとともに 神のいつくしみのまなざしのもとに

しばらく静かなひととき

を過ごしてみませんか？



母マリアは

私たちが闇夜を歩いているとき

神のいつくしみの愛を

母としてすぐそばで示してくださる

救い主イエスのかたわらには

かならず母マリアがおられる

～マリー・エウジェンヌ神父 ocd～

- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道をゆく』伊従編訳 聖母文庫、聖母の騎士
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-5706-7355
- お申込み： FAX：03-3704-1764 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月 30日(月) ～ 6月 7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

—闇と光—

2016年度 第1回 青年黙想会

日時： 5月21日 (土) 15:00 ~

22日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年5月15日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>
★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	3/17(木)17:30- 3/21(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
入門A	4/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	4/16(土)9:30- 17(日)17:00 4/23(土)9:30- 4/24(日)17:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上
ダイアリー	5/4(水)17:30- 5/8(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	同上
入門B	5/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
フォロー アップ	5/29(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
リピータの会	6/2(木)17:30- 6/5(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ(入門A、B、C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

【2016年予定】

- 3月17日(木)『霊の賛歌』第1回目：導入の講話(緒言と詩) 終了
- 5月26日(木)『霊の賛歌』第2回目：はしがき・概要・注解
- 7月21日(木)『霊の賛歌』第3回目：第一の歌(2～12)
- 9月22日(木)『霊の賛歌』第4回目：第一の歌(13～22)
- 11月17日(木)『霊の賛歌』第5回目：第二の歌
- 12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第三の歌

*参加費無料(献金歓迎)

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父(カルメル会日本管区長)

<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院(黙想)

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

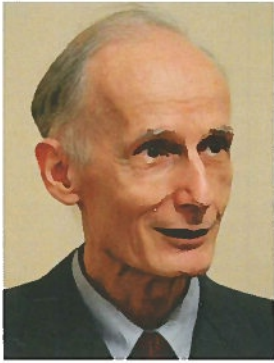
申し込み：上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

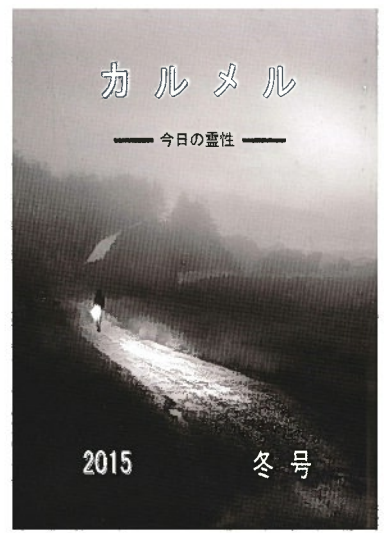
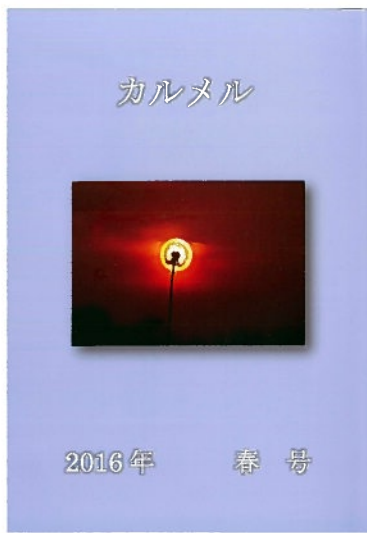
1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

「カルメル」
今日の霊性・冬号
今日の霊性・秋号



2016 春 No.360

2015 冬 No.359

神が慈しまれた道 (9)	聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて 最終回 ——(みことば)がわたしのうちに住まわれている喜び—— マリー・エウジエンヌ 編・訳 伊従信子	イエスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての一考察 (4)	風に吹かれて (7) ——成熟と喪失——
奥村一郎 48	森 みさ 41	松田浩一 25	原 造 22

● 目次 ●	
《今年の特集 いくつかの特別聖年》	須沢かおり 15
「いくつかの特別聖年」を迎えて (1)	九里 彰 3
「いくつかの特別聖年」の意義について (1)	田畑邦治 9
神のいくつかの祈りという人間の目標 ——ひとつの祈りにさそわれた考察——	
いくつかの特別聖年	須沢かおり 15

● 目次 ●	
《今年の特集 聖テレジアと奉獻生活》	九里 彰 3
修道生活の改革 (4)	
——アピラの聖テレジアの理想——	
エディット・シュタインの著作に見るアピラの聖テレサ ——祈りの真髄——	須沢かおり 9

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(＋送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5＝2,300円】＋送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

New! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先月、幼稚園のお誕生日会に招かれた。3月に4歳、5歳、6歳になる11人の男の子と女の子が教会の祭壇の前にお行儀よく座り、皆から、そして司祭から祝福を受けた。「神父さんの祝福は、神父さんを通して神さまが祝福しているんだよ」などと説明したが、「シュクフク」という言葉自体、子供たちにはよく分からなかっただろうと後で気づいた。

司会の先生がお名前やお誕生日や将来何になりたいか、一人ひとりに質問していく。女の子は「パティシエ」などと、はきはきと答えるのに対し、男の子はもじもじと照れて、中にはひと言も返事をしなかった子もいた。こんな小さい時から男女の差が表れている。夫婦喧嘩をすれば、男は負けるのだろう。「男は黙って、何とかビール」という古いコマーシャルを思い出した。

(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日

4月26日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171